

農作物技術情報 第8号 野生獣対策

発行日 令和8年10月29日
 発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
 編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）

携帯電話用
二次元コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
 パソコン、携帯電話から「<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>」

- ◆ クマ人身被害防止 引き続きクマへの最大限の注意をお願いします。
- ◆ 冬期間の恒久電気柵の管理 積雪に応じた対策を実施します。
- ◆ 来年度に向けて 今年度の課題を来年度に向けて改善しましょう。

1 クマ人身被害防止

- ・ 今年はブナの結実が「豊作」となったことから（表1）、クマが人里に下りてくることは少なくなるの見込まれ、9月のクマの出没件数も「ブナ」が大凶作だった昨年と比較し減少しています（図1）。
- ・ しかし、農作物などの味を覚えた個体は、山のエサの豊凶に関わらず人里に下りてくる可能性があるため、ほ場での出沒に注意するとともに、収穫物を狙ってクマが侵入しないように自宅や倉庫などの施錠を徹底します。
- ・ 今後も人身被害（図2）などのリスクが高い状況が続くことが見込まれますので、クマ出沒状況アプリ「Bears」（図3）などにより出沒状況を確認するとともに、これまではクマの出沒がない地域においても、最大限の注意をお願いします。

表1 年度別ブナ結実状況

	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年
結実状況	並作	大凶作	並作	大凶作	豊作

※ 東北森林管理局ホームページ資料より抜粋

※ 岩手県が「豊作」になるのは、平成27年以来11年ぶり

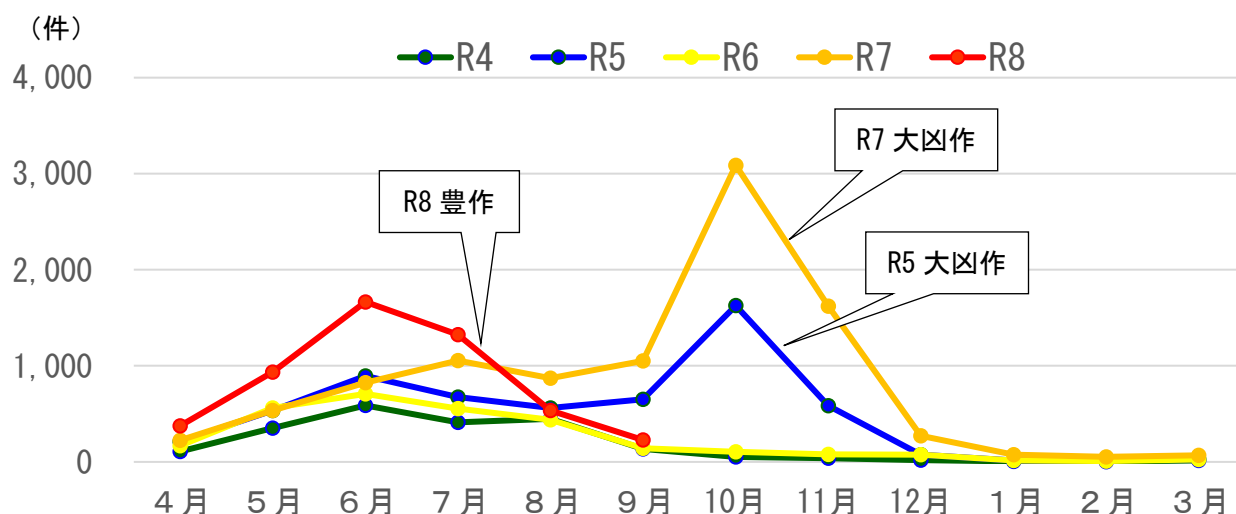


図1 クマの出没件数 (10/19 現在)

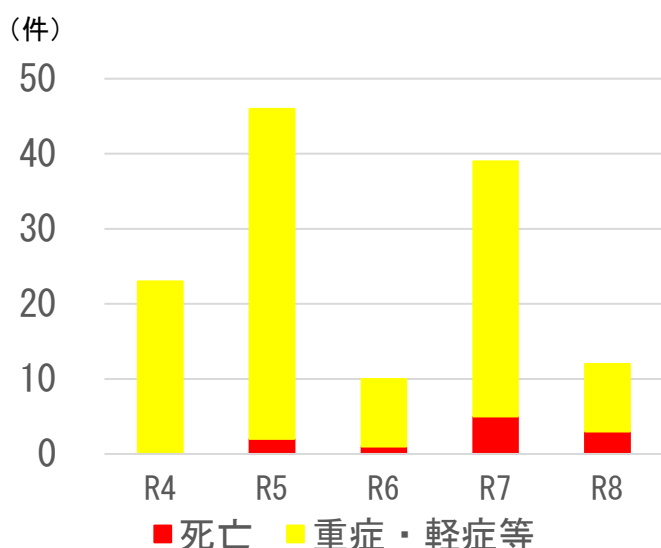


図2 クマによる人身被害 (8/29 時点)



図3 クマ出没情報アプリ「Bears」



2 冬期間の恒久電気柵の管理

(1) 冬期間も継続して使用する場合

- りんご園でシカからの花芽の食害を防ぎたい場合など、冬期間も継続して使用する場合は積雪による漏電や破損の対策を行い、引き続き稼働させます (写真1)。
- 雪に埋まらないワイヤーのみに通電し、雪に埋まるワイヤーには電気を通さないため、通電しないワイヤーの結線は外します (図4)。
- 積雪が浅い地域では、通電させないワイヤーをそのまま雪に埋もれさせても問題はないと見込まれますが、積雪が深い地域では、雪でワイヤーが引っ張られ破損するリスクがあるため、積雪で埋まるワイヤーを地面に下ろします。
- パワーユニットは、積雪で埋もれない高さに設置するとともに、ソーラーパネルに雪が積もっていないか、バッテリーが弱っていないかなど定期的に点検します。
- 100Vコンセントを利用するタイプのパワーユニットでは、漏電遮断機を点検するとともに、トラッキング火災防止のためコンセントやプラグについたホコリを拭き取ります。



写真1 果樹園における恒久電気柵

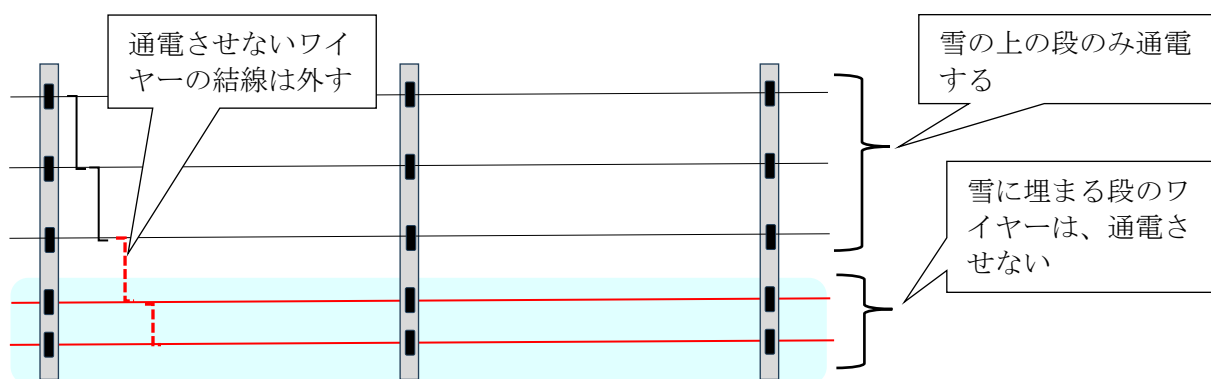


図4 積雪時の対応 (冬も守るべき作物がある場合)

(2) 冬期間には使用しない場合

- ・ 水田に設置している場合など冬に農作物を守る必要がない場合は、ワイヤーの緊張を緩め碇子から外し、全てのワイヤーを地面に下ろします（図5）。
- ・ 緩めたワイヤーの緊張具は、ワイヤーから外して持ち帰って保管するか、ほ場に残す場合は固定するピンを紛失しないよう、本体とピンをガムテープで巻いて固定します。
- ・ ワイヤーを外した碇子のピンは、外した状態のままでは雪に引っ張られ紛失する可能性があるため、また元の穴にピンを差し込みます。
- ・ 通電しないワイヤーを下ろさずにそのまま放置した場合、ワイヤーが雪に引っ張られて支柱ごと地面に埋まったり、碇子が破損するほか（写真2、3）、野生獣がワイヤーを安全なものと学習し電気柵が効かなくなるリスクがあるので、通電しない場合は必ずワイヤーを下ろします。
- ・ パワーユニットは、簡易柵と同様にバッテリーを外して室内で保管します（[農作物技術情報第7号](#)参照）。

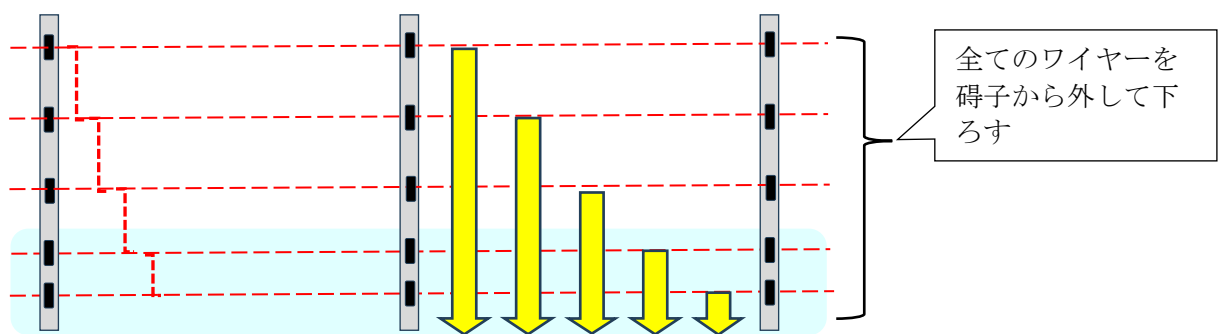


図5 積雪時の対応（冬期間には使用しない場合）



写真2 ワイヤーが雪に引っ張られ支柱ごと地面に埋まった電気柵



写真3 雪にワイヤーが引っ張られて破損した碇子

(3) その他

- ・ フェンシングワイヤーや単管パイプは耐久性が高い資材ですが、雪や雨で単管パイプの中に水が溜まり、碍子を固定するビスがサビて破損する場合があります。
- ・ その対策として、支柱下部にインパクトドライバーで水抜き穴を開ける（写真4）と、ビスのサビを防ぐことができますので、雪が降る前に実施しましょう。



写真4 単管パイプ下部に設置した水抜き穴

3 来年度に向けて基本技術の徹底を

- ・ 来年度の栽培に向け、今年度の被害状況等を踏まえた課題と対策を確認することが重要です。
- ・ 特に、県内では「侵入防止対策」として電気柵の設置が進んでいますが、電気柵が適切に設置されず、電気柵の効果を発揮できていない事例が多く見受けられています。
- ・ 今年度発行された農作物技術情報などを参考に基本技術を確認し、野生獣からの被害を防止できるよう来年度に備えましょう。

【電気柵の主な課題と対策事例】

① 電圧が不足している

→ 下草の除草、距離に応じたパワーユニットの選択、バッテリーの充電、アース点検と増設

② ワイヤーが獣種に応じた高さに設置されていない

→ シカ対策の4段（40、70、100、130 cm）からシカ・クマ兼用の5段（20 cmに1段追加）に改修

③ 地面の凹凸などにより野生獣が侵入できる箇所がある

→ 下がった箇所への支柱の追加による高さの調整、すだれ型のワイヤーの追加（写真5）



写真5 ポリワイヤー（左）とフェンシングワイヤー（右）を使った凹凸への対応

④ 緊張具を使用していないためワイヤーのテンションが不足している

→ 緊張具によりテンションをかける、ワイヤーからの負担が大きい角支柱の増強

ツキノワグマの出没に関する警報

県は、ツキノワグマの出没に関する一層の注意を促し、更なる被害の防止を図るため、県内全域に「ツキノワグマの出没に関する警報」を発表します。県民の皆さんにはツキノワグマの被害を防止するため、一層の注意をお願いします。

<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/shizen/yasei/1049881/1043255.html>

- 1 クマに遭遇しないために
 - ・ 事前に入山地域の出没情報や被害情報を確認する。
 - ・ 音の鳴るグッズを常に鳴らして存在をアピールする。
- 2 クマを寄せ付けない
 - ・ 食べ残し等、エサになるものを放置しない
 - ・ 農地周辺のやぶを刈り払い、見通しの良い環境を整備する。
- 3 出会ったときの行動
 - ・ 背を向けて走って逃げない
 - ・ 目を離さず静かにゆっくり後ずさる
- 4 襲われそうになったら...
 - ・ クマが攻撃してきたら両腕で顔や頭をカバーし地面に伏せて防御する

次号は11月26日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。
発行時点での最新情報に基づいて作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

**9月15日～11月15日は
秋の農作業安全月間です**

**「これくらい…」 少しの油断が事故のもと
初心忘れず安全作業**

農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。